

2023年8月29日(火) 16:00-18:20

## オンライン配信

オンライン会議アプリ『Zoom』を使用

事前に申し込みフォームへアクセスし、参加登録をお願いします。  
ご登録後、ウェビナー参加に関する確認メールが届きます。

参加費  
無料

登録締め切り

2023年8月28日(月)まで

〈申し込みフォームはこちら〉

[https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN\\_gjE1HW-PQVSpvRSm58U6uA](https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_gjE1HW-PQVSpvRSm58U6uA)

## 第5回

## バイオバンク オープンフォーラム

求められることと  
目指すこと

## ～バイオバンクの品質をめぐる～

バイオバンクに求められてきた「貯めるバイオバンクから、活用されるバイオバンク」へ、という変化は、バイオバンク・ネットワーク全体で、あるいはそれぞれのバイオバンクが努力を重ね、一定の進捗を果たしてきました。より「活用される」ために、バイオバンクに求められることは何でしょうか？

これまでバイオバンク連絡会等でも繰り返し取り上げられてきた、品質の面では、ISOに代表されるような国際的な認証を取得するよう取組も行われてきており、新たに制定されたISO20387について国内でもいよいよ認定が行われる状況となりました。

日本のバイオバンクに関わるコミュニティから何が発信され、何が求められていて、そしてそれは「活用される」ことにつながるのでしょうか？

また、バイオバンクの試料・情報が活用されるのは、それが収集されてから年を経た時点であり、バイオバンク側は、未来の需要に応えることを、何とか予測しながら進めているという側面があります。

バイオバンクが今、取り組もうとしていることが、現在の、あるいは将来の利用者のニーズに即したもののなのか、未来の利用者の目にならうもののなのか、常に、利用者と運営者が膝を交えて検討しながら進めていく必要があります。これも、バイオバンクそのものの質に関することです。現在の、品質の規定を定めた国際的な取り決めや動向は国内外でどういう状況なのかを踏まえながら、私たちの現在地と未来を探ります。



総司会 [東北大学東北メディカル・メガバンク機構]  
教授 長神 風二

16:00～ はじめに 第2期第1回のフォーラム開催にあたり

[東北大学未来型医療創成センター、  
東北メディカル・メガバンク機構]  
教授 荻島 創一

## 講演

16:10～ バイオバンクの国際的な活用を目指す取り組み  
“Initiatives for International Networking of Biobanks”

[一般社団法人日本生物資源産業利用協議会 研究部]  
上席研究員(理事) 中江 裕樹

16:35～ “For better quality in biobanks -  
audit programmes support  
improvement measures”

[Head of Quality Management Service, BBMRI-ERIC]  
Andrea Wutte

17:00～ バイオバンク側で取り組むこと、自己点検を中心に

[岡山大学 学術研究院ヘルスシステム統合科学学域]  
教授 森田 瑞樹

17:15～ ISO 20387および関連規格と国内への普及

[国立精神・神経医療研究センター メディカルゲノムセンター  
バイオリソース部]  
部長 服部 功太郎

17:30～ 「利用者側が求めること」についてのコメント

利活用企業関係者

17:45～ 総合質疑・討論

18:00～ まとめと閉会

※イベント終了後、企画者を中心とした本日の振り返りと次回に向けた検討を公開で行います。  
お時間許す方はご参加歓迎します。